



# 憲法九条改定？友好が台無しに・・・

## 憲法九条改定

安倍首相は十五日「われわれは九条を改正し、その（自衛隊）存在と役割を明記していく」と言明。選挙戦の前半ではぼかしていた九条改定をあらかじめにして来た。

背景には尖閣？

尖閣を巡り、中国と武力衝突の可能性が取りざたされている。しかし、大切なのは、日本の領有権の正当性を論理的に説明し、中国の民衆に納得して貰うこと。

昨年の中日貿易の輸出入総額は三千三百億ドル。中国進出企業も多い。経済面からも、戦争はできない。

では何故九条？

集団的自衛権とは、

日本が攻撃されなくても米軍が攻撃されたら、日本が攻撃されたと見なして武力で反撃すること。

米軍はイラク、アフガン等で戦争中。米軍はいつも攻撃されている。日本が九条を改定し集団的自衛権を行使するとすれば、直ちに「日本軍」の参戦となる。米兵に代わり日本兵が戦死する。国の予算は福祉から軍事に回され、日本の軍需産業は兵器を大量増産。

九条があったからこそ

これまで、外国に行っても「九条があるから日本軍が介入することははない」と、日本人は信頼されて来た。

九条を変えたら、各国民衆は日本軍の介入を気にしなければならなくなる。友好的雰囲気は台無しになる。

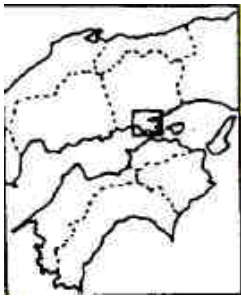
## 児島湾干拓地のポンプ場

岡山市南区



児島湾干拓地

水島コンビナート



浅瀬を仕切って排水した干拓地では、ポンプに排水を頼らざるを得ない。干拓地の色々な所にポンプ場があった。

岡山市の南部に児島湾干拓地がある。左上の地図で黄色の部分本来の陸地。黒っぽい所が干拓地。十六世紀から干拓が始まった。小学校の社会科の教科書に児島湾干拓地の興除村が載っていた。暗渠排水で水はけを改善し、農業生産が向上したとあった。一九八三年七月、岡山の水島コンビナートに二週間余り出張した。日曜日に、教科書のことを思い出して回った。田畑は碁盤のように区画され、農家が整然と並んでいた。排水のポンプ場の彼方の山は昔の島。麓は大昔からの集落だろう。そんなことを思いながら、道を進むとイタチが出て来た。道の真ん中に止まり、「何しに来たん？」と首をかしげてから、悠々と道を横切って行った。